

(別紙様式 2)

## 学生等評価の改善状況報告書

平成 28 年 3 月 31 日

評価会議議長 殿

農学部長

静岡大学における学生等による評価に関する基本方針に基づき、平成 24 年度に実施された学生等による評価結果に係る改善事項について、平成 27 年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項
学部生の国際的視野（異分野理解・グローバルな問題の理解）
改善計画
企業が求める国際的視野の中身がわからないので、それを調査した上で、必要に応じて、全学教育科目を含めて、国際的視野を涵養できる科目を履修できる設定を検討する。本件は、農学部内だけでは対処しきれないと思われる。
実施時期（予定を含む）：平成 28 年度カリキュラム
改善状況
新学科でも実施を予定している海外フィールドワーク（インドネシアガジャマダ大学での講義聴講と実習）を学部内ではすでに実施しており、全学的にはアジアブリッジプログラム副専攻制度が確立されており、国際的視野は改善されたと考える。
達成年度（予定を含む）
平成 27 年度

改善事項
学部生のリーダーシップ
改善計画
開講されている科目全体で、より強くリーダーシップが発揮できるよう、指導を強化していく。リーダーシップのあり方はさまざまなので、特定の科目でリーダーシップを涵養できるわけでない。一人一人の学生にあった形で、特に 3、4 年次の科目において、リーダーシップ涵養を意識した授業設計を取り入れる。
実施時期（予定を含む）：平成 28 年度カリキュラム

改善状況
新学科カリキュラムにおいて、農山村デザイン演習、木質科学専攻演習、環境フィールドワーク、海外フィールドワークなど、学生一人一人の能力・志向に合わせたリーダーシップや、デザイン能力の涵養を意識した授業を計画している。改善済み
達成年度（予定を含む）
平成27年度

改善事項
教職員との相談体制
改善計画
保護者と教職員が何らかの形で情報交換する手法を考える。また、就職支援状況について、保護者に対して定期的に情報発信をする。
実施時期（予定を含む）：平成25年度から実施可能な範囲で取り組む
改善状況
大学祭の情報交換会など複数回の保護者との相談体制を実施している。また、入学時の援護会ガイダンスで就職支援状況を説明するなど、定期的な情報発信を行っている。改善済み
達成年度（予定を含む）
平成27年度